令和３年度（2021年度）　シラバス

教科	国語	科目	国語総合（現代文）	１学年	必修	２単位
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	高等学校国語総合現代文編改訂版(三省堂)	副教材	新版七訂　新訂総合国語便覧（第一学習社）			
準備物	教科書・ノート・紙ファイル・国語便覧					

１　学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
		話す・聞く	書く	読む	
旭東ＤＰ	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
割合	20%	20%	30%	20%	10%
A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けている。	話合いを通して考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することが十分にできている。	他者に伝わることを意識しながら、適切な言葉を用いて、自らの思いや考えを文章で表現することが十分にできている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、客観的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが十分にできている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が十分に養われている。
評点	17～20	17～20	25～30	17～20	8～10
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	話合いを通して考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができている。	他者に伝わることを意識しながら、適切な言葉を用いて、自らの思いや考えを文章で表現することができている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、客観的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が養われている。
評点	9～16	9～16	13～24	9～16	4～7
C	実社会に必要な国語の知識や技能が不十分である。	話合いを通して考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することが不十分である。	他者に伝わることを意識しながら、適切な言葉を用いて、自らの思いや考えを文章で表現することが不十分である。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、客観的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが不十分である。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が不十分である。
評点	～8	～8	～12	～8	～3
評価方法	定期考査 小テスト	表現活動	定期考査 提出物	定期考査	提出物

２　学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	［読む］語彙に着目して文章を読み取ろう	論理的な文章における語彙の役割を学ぶ。
5	［話す・聞く］本を紹介しよう	効果的な伝え方を学ぶ。
	［書く］文章で他者に考えを伝えよう①	200字程度の意見文の作成を通して書きことばの基礎を学ぶ。
6	前期中間考査	
7	［読む］表現に着目して文章を味わおう	文学的な文章における表現の技法を学ぶ。
	［書く］文章で他者に考えを伝えよう②	200字程度の意見文の作成を通して書きことばの基礎を学ぶ。
8	［話す・聞く］他者に考えを伝えよう	スピーチを通して話しことばで効果的に伝える方法を学ぶ。
9	前期期末考査	
10	［読む］文章の内容を要約しよう。	要約を通して論理的な文章における構成を学ぶ。
	［書く］文章で他者に考えを伝えよう③	論理的な文章の構成を活かして400字程度の小論文の書き方を学ぶ。
11	［読む］心情に着目して文章を読み取ろう①	文学的な文章における登場人物の心情の読み取り方を学ぶ。
	後期中間考査	
12	［話す・聞く］他者と考えを伝え合おう	ディスカッションを通して話しことばで効果的に伝え合う方法を学ぶ。
	［読む］構成に着目して文章を読み取ろう	複数の評論文を比較して論理的な文章における構成を学ぶ。
1	［書く］文章で他者に考えを伝えよう④	論理的な文章の構成を活かして600字程度の小論文の書き方を学ぶ。
2	［読む］心情に着目して文章を読み取ろう②	文学的な文章における登場人物の心情の読み取り方を学ぶ。
	後期期末考査	
3	［話す・聞く］他者に考えを伝えよう	ディベートを通して話しことばで効果的に伝える方法を学ぶ。

３ 学習方法（どうやって学ぶか）

(1) 漢字や語句の意味等、基礎知識に関する小テストを行うが、それだけではなく様々な文章を読み、積極的に語彙量を増やすよう心掛けること。
(2)［話すこと・聞くこと］に関しては、リスニング、スピーチ、ディスカッション、ディベートを教材とする。
(3)［書くこと］に関しては、年間３～４回の課題を作成・提出することを求める。課題は期限を守って確実に提出すること。
(4)［読むこと］に関しては、教科書にある文章を教材として使用するが、定期考査ではそれら以外に初見の文章からも出題する。論理の構成や展開の仕方等、読み方を身に付けようとすること。
(5)主体的に読書することを強く勧める。一冊読み終えたら「読書記録」に必要事項を記入し、授業担当に提出すること。評価に含まれる。書籍になっているもの以外にも、本校で毎日発行している「小論情報」や「本日のコラム」等を読むようにしよう。
(6)国語の授業を通して身に付けることは言葉に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できる。それを意識して高校の授業に臨もう。